## 協議会方式

# 受付から出場までの所要時間を1分短縮

## <共同運用実現まで>

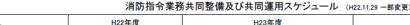
経緯:三浦半島全体で消防広域化を検討したが課題が多く、各市町に共通してメリットが出る可能性が高い指令業務の共同化を集中的に検討、平成25年に横須賀市と三浦市が共同運用を開始、H27年からは葉山町が加わった。 検討体制:広域化検討委員会・幹事会・指令情報分科会→共同処理推進委員会→法定協議会

#### 検討結果:

- 運用開始年月日は旧指令システムのメーカー保守期限 に合わせた
- 設置場所は経過年数、面積、耐震性で横須賀市消防局
- 共同処理する業務範囲は消防指令業務に特化した事務 (通報受信、出動指令、通信統制、情報伝達)とした
- 経費負担は2市共同化による全体経費低減額と各市の 低減額が同じになるような負担割合を調整
- 配置人員は、2市(横須賀市・三浦市)の119番着信件 数、類似規模消防本部の状況や、横須賀市の火災調査 員に指令員として兼務させることなどを考慮
- 消防団への指令が2市で異なっていたため、三浦市に おいて消防団メール導入に向けた調整を実施

新体制への移行手続き:「消防通信指令事務の内容調整に関する資料」を作成して以下の運用方法を検討

- 災害の覚知区分は横須賀市に合わせて統一
- 災害種別は両市に大きな差があり、横須賀市を基本として統一
- 無線運用も両市で異なっていたため、両市の通信内容 を統一し、三浦市の通信統制の詳細を策定した
- 統一的な無線通信用語の基準を策定する必要が生じ、協議を経て、横須賀市に合わせた
- 指令システムの操作方法と共同運用方法の理解について1カ月の職員研修の実施





# <共同運用の実施>

体制:34人(3交代制/身分は所属 消防本部と協議会の併任)

#### 共同処理する業務範囲:

- 関係機関への連絡、消防団への 出動指令、消防無線(基地局) の維持管理
- 職員の招集、防災無線の操作、 消防無線(移動局に限る)の維 持管理は各市町個別

#### 消防指令システム:Ⅲ型

高度な運用:横須賀市と三浦市間で救急隊の実質的なゼロ隊運用 (出動地域は県の相互応援協定に 基づく)

### <効果>

- 整備費で約2.6億円、保守・通信費 で約1500万円の削減効果
- 3人の人員削減効果
- 応援体制の強化により受信受付から出場までの所要時間が約1分短縮されるなど市民対応力が向上

### <課題>

• 共同運用開始後も運用等の調整を 専任職員が実施したため特に課題 は発生せず現在に至る